

令和8年5月15日

国家公務員共済組合連合会
理事長 松元 崇 殿

虎の門病院医療安全監査委員会
委員長 滝沢 牧子

令和7年度 第2回医療安全監査委員会 報告

虎の門病院の医療安全監査委員会規程に基づき、下記のとおり監査を実施いたしましたので、報告いたします。

[開催日時] 令和8年3月3日(火) 10時30分～12時00分

[開催場所] 虎の門病院 903会議室

[監査方法]

病院管理者および医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等からの資料に基づく説明を受け、ヒヤリングを行った。また、院内2部署の現地調査を行った。

[監査委員]

滝沢牧子委員長(埼玉医科大学総合医療センター医療安全管理学講座 教授)

飯野奈津子委員(医療福祉ジャーナリスト)

荒井有美委員(北里大学病院医療安全推進室 副室長/医療安全管理者/看護師長)

豊田郁子委員(患者・家族と医療をつなぐNPO法人「架け橋」理事長)

児玉安司委員(新星総合法律事務所 弁護士)

[監査事項]

1. 前回指摘事項と対応状況

前回指摘事項の対応状況について説明がなされ、対応されていることを確認した。

2. 監査事項

1) 医療安全にかかる委員会活動状況

指摘事項なし。ひきつづき、病院の医療安全にかかる決定事項が現場の職員に確実に情報が伝わる体制を確認いただきたい。

2) 医療安全の活動状況

インフォームド・コンセントについては、院内でルールをさだめ、実施状況について定量的評価が実施され、ティーチバックの啓発など、理解度の確認の取り組みが定着してきており、優れた取り組みと評価できる。

医療安全対策室を中心にインシデント報告に基づく事例の検討や再発防止策の周知が行われており、実質的な優れた取り組みと評価できる。長期的な継続性の観点から、医療安全管理者、医療安全管理責任者、対策室の業務内容について、規則や規程等にも具体的に記載しておくことが望ましい。

3) 医療安全の研修

医療安全研修は受講率 100%であり、基本的な内容が広くカバーされていることが確認できた。研修内容の理解度を確保するためのテスト難易度や研修内容の見直しは定期的に行われることが望ましい。

4) 高難度新規医療技術と未承認新規医薬品の部門および委員会

担当部門および審査の委員会の体制が整えられている。医薬品の適応外使用に関するリスク層別化の工夫として、ガイドラインや添付文書等の根拠に基づき、薬剤の性質や投与量、投与方法などによる3段階のリスク分類が整備された。効率的に情報収集・管理を行うとともに、現場の負担を軽減する体制が整えられ、カルテ記載や説明についても配慮されていることは高く評価できる。

5) 院内ラウンド

救急外来および病棟部門にラウンドを行った。救急カートは統一されており、適切に管理されていた。病棟におけるバイタルサインモニター適正化とスタッフによるモニタリング理由の情報共有は優れた取り組みと評価できる。

[監査結果]

前回指摘事項に対して改善されている状況が確認できた。

質の高いインフォームド・コンセントは患者本位で質の高い医療の前提であり、定量的評価に加えて緻密に質を高める取り組みは高く評価できる。医療安全対策の活動は丁寧に行われており、リスクマネージャー会議等を通じて現場にくまなく浸透させることで、より一層の職員の医療安全意識の向上が期待される。

高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等の担当部門および審査委員会は体制が整えられ、医薬品の適応外使用に関するリスク層別化の取り組みを開始されたことは安全性を損なわずに効率化につながる取り組みと評価できる。

病棟でのバイタルサインモニターの適切な管理運用が確認された。